平成２８年度岡崎市観光基本計画推進委員会　第２回議事録

日時：　平成 28 年 7 月 7 日（金）　10 時 00 分～12 時 00 分
場所：　岡崎市役所分館 2 階 202 会議室
出席委員：　11 名
高橋一夫（委員長）、A 佐野幸弘、B 河原一夫、C 堀田大祐、D 竹内博剛、E 西尾孝志、F 天野裕、G 嶋村光世（職務代理）、H 神谷知秀、I 五反田智美、J 長尾晴香
欠席委員：　齋藤眞澄、野村顕弘
オブザーバー：志賀爲宏（岡崎市観光協会会長）
石原嘉明（岡崎活性化本部観光推進プロデューサー）
事務局：　８名（神尾経済振興部長、観光課職員 4 名、(株)JTB 総合研究所 3 名）
傍聴者：　0 名

１　開会

２　委員挨拶
・　長尾晴香委員…前回欠席のため。
・　堀田大祐委員…人事異動で名古屋鉄道株式会社東部支配人に就任したため。
（今川委員と交代）

３　議題
（１）岡崎市観光基本計画アクションプランの構成（案）について
（事務局）
【資料 1 概要説明】

（委員長）
・観光産業都市岡崎の姿がはっきりとここで示されている。稼ぐ力を作り上げるということは、人・物・金が動いていないといけないということになる。人に来てもらうだけではなく、消費も起こらなければならない。
・皆様からご意見をいただきたい。観光で稼ぐという点で、宿泊施設の代表であるＤ委員、いかがか。
（Ｄ委員）
・岡崎に滞在して消費をしていただくという意味では、ホテルで快適に過ごしていただ

く必要がある。民間の他の施設とも連携し、観光の魅力をホテルの中でも体験できるようなものにしなければ、なかなか滞在してもらえない。

（委員長）

・稼働率はどのくらいか。

（D委員）

・中国、台湾からのインバウンドもあり、70%位である。

（委員長）

・アクションプラン案に、既存産業の活性化が謳われているが、D委員によれば同業他社あるいは、他業種との連携による重なりの中に新たなビジネスチャンスを見出すことができ、ひとつの活性化に繋がると考えてよいか。

（D委員）

・今ある資源を組み合わせると、違った魅力となり、発信力を強めることになる。まったく新しいものを出すとなると難しい。

（F 委員）

・平成 18 年の観光基本計画を見直してアクションプランを策定するのだと思うが、その前提として簡単に岡崎が観光産業都市化するのは、あり得ないということを基本線に置いた方が良いのではないか。

・今のアクションプランは、行政のやる施策の集合体に見える。アクションプランの肝はどれだけ民間を取り入れられるか、民間がおもしろいと感じて自発的に事業をやってくれるかどうかだと思う。

・稼ぐ力を創造させるということがキーワードであると思うが、稼ぐのは民間であり、今のプランではまだ弱い。

・稼ぐ道筋として、もう一枚、民間アクションプランを作るという対策が必要ではないか。

（H 委員）

・ご当地グルメの活動を行なっているが、結果としてロードサイドのお店が提供していて、そこだけで終わってしまい、消費に繋がらない。

・大切なことは、食べ歩きだと考えている。飲食を集約して展開する場所が無い。

・移動販売の方々は非常に力を入れている。ただイベントが無い時は売る場所が無い。販売の場所があれば、そこが食べ歩きの場所にもなる。

（委員長）

・私有地をうまく活用できると良い。商店街のリノベーションに取り組んでいる F 委員、いかがか。

（F 委員）

・公共空間であれば、規制緩和のエリア指定をしていただいたり、社会実験で収益性や安全性を検証したりすることも必要である。リバーフロントエリアでは全面的に検証を行いたいと考えている。

・民地に関しては、回遊するポイントをいかにつないでいくかが大切だが、軒先をお借

りして軽食を販売するなどの例もあり、回遊性を持たせることも大事である。
（委員長）
・J 委員、外国人の活用する場が持てそうであるか。
（J 委員）
・市民としての外国人がなかなか登場していない。素敵な食べ物があることよりも、個人の繋がりが強いのではないかと思う。街のデザインがそういったところを生み出せるものであると良い。
（委員長）
・その時は是非頭に立って動いていただきたい。E 委員、いかがか。
（E 委員）
・個人のお客様をどのように誘致するかである。味噌蔵にだけ来ても滞在時間が短いため、岡崎市内にどのくらい滞在してもらえるかどうかであると思う。
・現在、フードコートの設置し有名店に出店していただくことを企画している。まず起点を作り、それが成功事例となれば周辺地区もやってみようという気になってもらえるのではないか。
（委員長）
・食で面白い店が増えると、名鉄としても支え甲斐があるのではないかと思うが、C 委員いかがか。
（C 委員）
・良いものや、優れたサービスを生み出せるかどうか、新しいものを生み出せるか、集まることによって違う価値を生み出せるかどうかで人が動く。何をどのように作り上げるかが重要である。
（委員長）
・A 委員、食材の提供などに通じる話も出てきたが、お感じになることがあればお伺いしたい。
（A 委員）
・中山間地域の景観を支えているのは、小さな農家である。観光都市というのは住みやすい町でもあり、防犯、環境、サイン、衛生管理の整備が大事である。観光産業都市を目指すのであれば、そうした基本的なことが抜けているのではないか。
・農協の立場としては、コラボレーションできるものがあれば、六次産業化に繋げていきたい。
（委員長）
・今までの話を受けて、I 委員いかがか。
（I 委員）
・公共の交通機関を利用して、もっとウォーキングを重視できる形の観光を含めて考えていけると良い。1 日周遊券なども利用できれば歩く人も増え、それぞれの町が活性化するのではないか。
・老舗の旅館が新しい道路計画で潰されてしまうかもしれないという話がある。外国人

利用者もあり、もったいないと感じている。

（委員長）

・市民を含め、新しいことを動かそうというときに、金融機関も色々とお考えになると思うが、Ｂ委員いかがか。

（B 委員）

・岡信資料館が来年築１００年を迎えるにあたり、名古屋工業大学の名誉教授をお招きして、建物を建築した鈴木禎次という人を深堀りし「鈴木禎次と夏目漱石」と題したご講演をいただいた。建物としての価値を我々は見ていなかったが、鈴木禎次は全国的に有名で、聴衆の中には広島や福山からわざわざ来られた方もいた。知恵を絞れば違う対象の方に訪れてもらえる。

・ピンポイントでイベントを行なうのではなく、連携することで周遊してもらう仕組みを意図的に作ることが必要だ。

（G 委員）

・人気の何かに乗るのが一番ではないか。大洗町の「ガールズ&パンツァー」などのように、アニメや一部マニアの聖地化にしてしまうことも一つの方法である。外国人も興味を持っている。抵抗のあるジャンルではあるかもしれないが、一度見ていただきたい。

・そうした動きは、DMO 組織があった上で、民間も巻き込んで行くことにつながる。

（委員長）

・先ほど A 委員より、防犯や衛生等についても配慮が必要ではないかとのご意見があったが、事務局にご検討をお願いし、アクションプランの構成としてご異議がなければ、このまま作成を進めさせていただきたい。

（B 委員）

・ただ単に家康公の生誕地ということではなく、265 年の平和な時代を作ったことを踏まえて、世界に向けて平和を訴える家康公の生誕地、というブランドをアクションプランに入れてはどうか。

（委員長）

・ブランドを作るためのスピード感の問題であると思う。皆さんの想いを文言の中にいれさせていただくということで、取りまとめさせていただくということでよいか。

（F 委員）

・行政版のアクションプランを踏まえて、民間版のアクションプランを検討するワーキングチームができると、意見交換したものが繋がりをもって新しい動きや盛り上がりを作れることができるのではないか。

（委員長）

・民間活力をどう使うのかという枠組みの中に入れさせていただきたい。

（２）民間活力の活用について

（事務局）

【事務局説明】
（委員長）
・今までのご意見は、新しい投資の呼び込みよりも、既存の産業が新たに重なり合うところに何かを見出されるのではないか、リバーフロントのような行政が呼び水として作ってくれたところをどう活用していくのかということであった。
・「トラベルジャーナル」誌の観光関連産業の経営者アンケートで、2020 年に経済を牽引しているであろうビジネスは、ＩＴサービス、シェアリングエコノミー、DMO がトップ 3 であった。これもヒントにご発言いただきたい。
（G 委員）
・今持っている物を、誰に向けてどのように発信するかが大事である。まず来てもらうためにはどうしたらよいかを、DMO 的な組織があったうえで考えなければ観光に広がりがない。
（委員長）
・観光庁は日本全国各地の自治体に向けて、DMO の候補法人の登録申請をするように促し、新型交付金、加速化交付金をこれに投入する。
・観光行政と DMO の関わりをどのように整理するのかというと、これまでは行政と観光協会は同じことを行なってきたが、観光行政は 2 次交通の問題や、観光産業の育成を行なうべきである。
・その上で、DMO はプロ集団がいる組織であって欲しいというのが、観光庁の議論の中に出てきている。
（F 委員）
・以前、中心市街地のまちづくりで、TMO というものがあったが、下火になってしまった。理由としては、行政からの委託事業を請けるだけで、自分で収益を上げられず、成果を生むことができなかったことにある。DMO も作るだけではなく、収益を上げていくための方法を考え、自立していく道筋を描くというプロセスが必要である。
・先ずはチームを作り核になるような事業や人材の育成が重要。従って、行政の役割は、民間が稼ぐための環境をどう整えるかである。
・岡崎は自転車で周るには非常によい距離感で、資源が点在しており、自転車で周ることができるレンタルサイクルのネットワークを作ると、可能性があるのではないか。
（委員長）
・DMO は受託事業を受けられるという専門性を持たなければならないといわれている。
・BID（Business Improvement District）という制度がある。商店街が何か新しい事業を行なうときに、補助金を求めるのではなく、自分たちの分担金で作り上げようというものである。分担金は、都市計画税などをとるときに税金と一緒に徴取し、それを事務局が運用することで事業が展開できる。
・今後、多様な財源を扱う場合は、こうした手法を議論の中でどのようにしていくべきかを考えておくべきだと思う。
・民泊は、法律ができても行政が条例で規制することが可能となるため、岡崎市がどの

ようにしていくかで、次の新しいビジネスに繋がるかもしれない。

（J 委員）

・DMO の役割に関連して、事業者のコンサルティングや町としての統一性が未完成であることについて議論が必要だと思う。民間から何かしたいという声は上がっているが、岡崎として進めていくというアプローチを取ることができるといいのではないか。

・行政の下請けになってしまうと、自立ができない。初めから自立できる設計をし、民間が同じ目標の下で動けるような連携をとる必要がある。

（委員長）

・E 委員のフードコートが魅力的である。

（E 委員）

・将来的には民間の飲食店を開業したい若い方を公募して、2 年間貸してやっていただこうかと考えている。受け入ればかり考えていたのだが、利用していただいて何かをやっていただくのがよいのではないかと考えている。

（D 委員）

・何かを売り出そうと思っても、なかなか動き出すのは難しい。横の連携が必要だと分かっていても、どうやっていけばよいのかわからないが、プロフェッショナルな集団がいて、さまざまな事業所の方々を巻き込んで、ひとつになって取り組んでいくということは非常によいと思う。

（C 委員）

・どこに訴求するのかも重要である。外国人もそうだが、ターゲットを絞って訴求するべき。我々はそれを呼び水にして、人が動く仕組みを考えたいと思う。

（H 委員）

・単発的なイベントでもリピーター獲得につながるため、イベントの集客が必要。その手段としてチラシやポスターが主流だが、最近はユーチューバーを使っている。タレントや芸人を呼んでも告知をするのがチラシポスターでは大きな効果はない。ユーチューバーには多数のファンがいるので訴求力がある。

（委員長）

・SNS の使い方は今後重要になってくる。

（B 委員）

・企業・事業所の連携が一番重要であると思う。他に安定的に収入がある環境があったためこれまで取り組んで来なかったが、観光産業として成り立つにはイニシャルコストの負担問題の解決がなければ、そこに踏み込むことが難しいのではないか。

（A 委員）

・油会社から、エゴマを作って欲しいという依頼があったが、依頼や提案があれば、検討して協力ができる。

（I 委員）

・愛知トリエンナーレで、奥田瑛二氏が、今度は犬山か岡崎で映画を撮りたいとおっしゃっていた。それだけ岡崎に魅力があると感じた。

・子供向けのイベントがあるのだが、マップを作るのに商店主さんたちに広告協力の依頼をしたところ、快く協賛いただいた。10 年かかったが、地元に根づくことが岡崎では重要だと感じた。

（委員長）

・皆様からいただいたご意見を前向きに捉え、事務局に整理していただき、次回の会議に繋げたい。

４　その他

（１）今後のスケジュールの確認について

【事務局説明】

（２）第３回、第４回岡崎市観光基本計画推進委員会の日程について

【事務局説明】

５　閉会

以上